

平成三十年 度

小学校教員資格認定試験

教職に関する科目 (Ⅱ)

国 語

注 意 事 項

受験者は、左記注意事項によること。それ以外の注意事項は試験運営大学の指示によること。

- 一、試験監督者の「始め。」の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- 二、運営大学名、氏名、受験番号、受験科目を平成三十年度「幼稚園・小学校教員資格認定試験解答カード」(以下、「解答カード」という。)の指定された欄に必ず記入してください。
- 三、受験番号、受験科目をマークしてください。
ただし、受験科目のマークについては、小学校の欄にマークしてください。
- 四、解答カードの中で特に受験番号、受験科目の欄の記入及びマークを間違えると失格になるので注意してください。
- 五、解答は、全て解答カードの解答欄にマークで記入してください。問題冊子に答えを書いても無効です。
- 六、マークは必ず鉛筆を使用して、枠内にきちんと記入してください。
訂正するときは、消しゴムで完全に消してください。また、解答カードを曲げたり折ったりしてはいけません。
解答カードが汚れた場合や折れてしまった場合は、試験監督者に解答カードの交換を申し出てください。
- 七、この試験の解答時間は、「始め。」の合図があったから五〇分です。
- 八、試験が終わるまで退室できません。
- 九、試験監督者の「やめ。」の合図があったら、直ちにやめてください。
- 十、下書きには問題冊子の余白を使用してください。
- 十一、試験終了後、問題冊子を必ず持ち帰ってください。

[マーク例]

(よい例) ●

(悪い例) ○
○
○
○

※以下の問いにおいて、「小学校学習指導要領(国語)」とは、「小学校学習指導要領」(平成二十年文部科学省告示第二十七号)第2章 第1節 国語を言う。

問一 次の文章は、『小学校学習指導要領解説 国語編』(平成二十年八月、文部科学省)の「第1章 総説 2 国語科改訂の趣旨」に述べられている内容である。

ある。文中の空欄 A A A D に入る語の組合せとして正しいものを、後のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

子どもたちの A を踏まえた学習の系統性を重視し、学校段階・学年段階ごとに、具体的に身に付けるべき能力の育成を目指し、重点的な指導が行われるようにする。その際、小学校においては B に必要な国語の能力の基礎を、中学校においては C に必要な国語の能力の基礎を、高等学校においては D として必要な国語の能力の基礎をそれぞれ確実に育成するようにする。

- | | | | | |
|---|-------|------|------|-----|
| | A | B | C | D |
| ア | 成長の段階 | 日常生活 | 社会生活 | 知識人 |
| イ | 発達の段階 | 日常生活 | 社会生活 | 社会人 |
| ウ | 発達の段階 | 社会生活 | 日常生活 | 知識人 |
| エ | 成長の段階 | 社会生活 | 日常生活 | 社会人 |

問二 次の文章は、『小学校学習指導要領解説 国語編』（平成二十年八月、文部科学省）の「第1章 総説 3 国語科改訂の要点」に述べられている内容である。文中の空欄 A、B、C、D に入る語の組合せとして正しいものを、後のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

読書の指導については、
改善を図っている。また、
とも重視している。

A に応じて本や文章などを選んで読んだり、それらを B して自分の考えを記述したりすることを重視して
C に読書に親しむために、 D を計画的に利用し必要な本や文章などを選ぶことができるように指導するこ

- | | | | | |
|---|----|----|-----|-------|
| | A | B | C | D |
| ア | 習熟 | 活用 | 日常的 | 学級文庫 |
| イ | 目的 | 探究 | 積極的 | 学校図書館 |
| ウ | 習熟 | 探究 | 積極的 | 学級文庫 |
| エ | 目的 | 活用 | 日常的 | 学校図書館 |

問三 「小学校学習指導要領（国語）」の「第1学年及び第2学年」の「2 内容」における「A 話すこと・聞くこと」の(1)に示されている指導事項として適切でないものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 相手に応じて、話す事柄を順序立て、丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて話すこと。
- イ 関心のあることなどから話題を決め、必要な事柄について調べ、要点をメモすること。
- ウ 姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意して、はっきりした発音で話すこと。
- エ 大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞くこと。

問四 「小学校学習指導要領(国語)」の「第3学年及び第4学年」の「2 内容」における「B 書くこと」の(1)に示されている指導事項として適切でないものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 文章の敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。
- イ 書いたものを発表し合い、書き手の考えの明確さなどについて意見を述べ合うこと。
- ウ 書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。
- エ 表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。

問五 「小学校学習指導要領(国語)」の「第3学年及び第4学年」の「2 内容」における「C 読むこと」の(1)に示されている指導事項として正しいものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をすること。
- イ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。
- ウ 目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。
- エ 文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。

問六 次の三点は、「小学校学習指導要領(国語)」の「第5学年及び第6学年」の「2 内容」における「A 話すこと・聞くこと」の②に示されている言語活動例である。文中の空欄 A、B、C に入る語の組合せとして正しいものを、後のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ・ A を提示しながら説明や報告をしたり、それらを聞いて B や提案をしたりすること。
- ・ 調べたことやまとめたことについて、C などをする事。
- ・ 事物や人物を D したり、それを聞いたりすること。

	A	B	C	D
ア	資料	助言	討論	推薦
イ	根拠	批判	助言	紹介
ウ	根拠	助言	討論	紹介
エ	資料	批判	助言	推薦

問七 「小学校学習指導要領(国語)」で、各学年の「2 内容」における「C 読むこと」に関する内容のうち、②に示されている言語活動例について、学年と言語活動例との組合せとして正しいものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア (第5学年及び第6学年) 必要な情報を得るために、読んだ内容に関連した他の本や文章などを読むこと。
- イ (第1学年及び第2学年) 事物の仕組みなどについて説明した本や文章を読むこと。
- ウ (第3学年及び第4学年) 伝記を読み、自分の生き方について考えること。
- エ (第1学年及び第2学年) 物語や詩を読み、感想を述べ合うこと。

問八 「小学校学習指導要領(国語)」の「第3学年及び第4学年」の「2 内容」における「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に関する内容のうち、

「イ 言葉の特徴やきまりに関する事項」に示されている内容として正しいものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 表現したり理解したりするために必要な文字や語句について、辞書を利用して調べる方法を理解し、調べる習慣を付けること。

イ 言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。

ウ 日常よく使われる敬語の使い方慣れること。

エ 文の中における主語と述語との関係に注意すること。

問九 「小学校学習指導要領(国語)」の「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」1の(6)に示されている内容として正しいものを、次のア～エの中から一つ選

んで記号で答えなさい。

ア 低学年においては、他教科などとの関連を積極的に図り、指導の効果を高めるようにすること。特に第1学年においては、就学前教育における言葉に関する内容などとの関連を考慮すること。

イ 低学年においては、他教科などとの関連を積極的に図り、指導の効果を高めるようにすること。特に第2学年においては、幼稚園教育における言葉に関する内容などとの関連を考慮すること。

ウ 低学年においては、生活科などとの関連を積極的に図り、指導の効果を高めるようにすること。特に第1学年においては、幼稚園教育における言葉に関する内容などとの関連を考慮すること。

エ 低学年においては、生活科などとの関連を積極的に図り、指導の効果を高めるようにすること。特に第2学年においては、就学前教育における言葉に関する内容などとの関連を考慮すること。

問十一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

北九州のある小学校で、私はこんな歌を習った事があった。

更けゆく秋の夜 旅の空の 侘^{わび}しき思いに 一人なやむ 恋いしや古里 なつかし父母

私は宿命的に放浪者である。

私は古里を持たない。

私は雑種でチャボである。

父は四国の伊予の人間で、太物^{ふともの}の行商人であった。

母は、九州桜島の温泉宿の娘である。

他国者と一緒になったというので、母は鹿児島を追放されて、父と落ち着いたところは、馬関の下関であった。私が^A初めて空気を吸ったのは、その下関^Bである。

両方の故郷に入れられない、両親を持つ私は、したがって旅が古里である。それ故、渡り者である私は、この恋いしや古里^Cの歌を侘びしい気持ちで習った。

(林芙美子『放浪記』による。現代表記に改め、原則として振り仮名を省いた。また、改行の表示を変更したところがある。)

(注) チャボ——品種改良で作られた小型のニワトリ。 太物——綿麻などの和服用の織物。
馬関——下関の旧称。ここではその地域一帯の意。

本文中の傍線部A「初めて空気を吸った」とはどのような意味か。最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 初めて世間を知った イ 初めて身の上を知った ウ 物心がついた エ 生まれた

問十二 問十一の文章中の傍線部B「両方の故郷に入れられない、両親を持つ私」の意味として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 両親の二人ともが、それぞれの故郷に入れられない、そんな両親を私が持っているという意味。

イ 両親も私も、故郷を追放されて、故郷には受け入れられないという意味。

ウ 父の故郷にも、母の故郷にも私が受け入れられないという意味。

エ 母の故郷には、父も母も、そして私も受け入れられないという意味。

問十三 問十一の文章中の傍線部C「この恋いしや、古里の歌を侘びしい気持ちで習った」という「私」の心中は、どのようなものであったと考えられるか。最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア この歌に歌われているような故郷への強い思いは私にもよくわかるので、歌の中の人物と同じように、故郷を恋しく、なつかしく思つてこの歌を習った。

イ この歌には故郷を恋しく、なつかしく思う感情が歌われているが、故郷そのものを持つことのできない私は、ひとり、さびしい思いでこの歌を習った。

ウ 歌に出てくる人物と同じように私も故郷を離れているので、故郷への強い思いが一層のことよくわかり、私も故郷を思う気持ちを抱いてこの歌を習った。

エ 旅先の侘びしい思いにとらわれたとき故郷を思えば慰められるということが、常に旅にある私にもよくわかり、その思いを強くしてこの歌を習った。

問十四 次の和歌の傍線部「袖ひちて」に関して、動詞「ひつ」の説明と「袖ひつ」の意味として最も適切なものを、後のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

春たちける日よめる

紀貫之

袖ひちてむすびし水のごほれるを春立つけふの風やとくらむ

- ア 「ひつ」は四段活用の自動詞。「袖ひつ」は「袖がぬれる」の意味。
イ 「ひつ」は上二段活用の他動詞。「袖ひつ」は「袖がぬれる」の意味。
ウ 「ひつ」は上二段活用の自動詞。「袖ひつ」は「袖をぬらす」の意味。
エ 「ひつ」は下二段活用の他動詞。「袖ひつ」は「袖をぬらす」の意味。

問十五 問十四の和歌について説明したものとして適切でないものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 「むすぶ」「はる」「たつ」「とく」は、いずれも掛詞の技法による表現である。
イ 「むすぶ(結ぶ)」「はる(張る)」「たつ(裁つ)」「とく(解く)」「が」袖」の縁語になっている。
ウ 万葉集の「むすぶ手のしづくににぎる山の井のあかでも人に別れぬるかな(つらゆき)」を元にした本歌取りの技法によるものである。
エ 「袖ひちてむすびし水」と「春たつけふの風」とを、その情況や季節などの変化との関係から、対句的に詠むという紀貫之らしい技巧がこらさわれていると評される。

問十六 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。なお、設問の都合で一部の送り仮名を省略した。

横渠先生曰、「今之朋友、^ハ扱^ヒ其善柔^{ナルラ}、以^テ相与^{クミシ}、拍^タ肩執^リ袂^ヲ、以^テ為^ス氣合^フ、一言不^レレハ

与^{スレバ}、得^{ルコト}効^ヲ最^モ速^{ヤカナリト}。」

(注) 横渠先生——宋代の学者張載。

(朱子「小学」外篇)

右の文章の傍線部A「氣合」と同じ意味の漢字四字の言葉を、次のア～エの中から一つ選んで答えなさい。

- ア 理気合一
- イ 気合必入
- ウ 和気合合
- エ 意気投合

問十七 問十六の文章中の傍線部B「欲^ニ其相下不^レ倦」(送り仮名は省略した)の書き下し文として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選んで答えなさい。

- ア 其の相下りて倦まざるを欲す。
- イ 其の相下らざるを欲して倦まず。
- ウ 其の相は下らずして倦まんと欲す。
- エ 其の相は下にして倦まざらんと欲す。

問十八 問十六の文章中の傍線部C「得_レ効最速」にいう最も速やかに「効」を得られる朋友を、次のア～エの中から一つ選んで答えなさい。

- ア 人当たり善くつき合える朋友。
- イ 肩を叩き袖を引き合える朋友。
- ウ 憤慨し口論し合える朋友。
- エ 譲り合い尊敬し合える朋友。

問十九 次のア～エの傍線部の語には、「季節や時間の流れとともに変わる海のどんな表情でも、太一は好きだった。」(立松和平「海の命」)における「でも」と同じ用法のものがある。それを一つ選んで記号で答えなさい。

- ア どんなに月並みで平凡なことからも必ず何かを学べる。
- イ 教科書にも掲載される有名な絵なので誰でも知っていた。
- ウ からだが強くて体力に自信のある人でも病気には勝てない。
- エ 表面は一見穏やかな表情でも内心はひどく動揺していた。

問二十 次の①～⑩の傍線部について、現行の「現代仮名遣い」(昭和六十一年七月一日内閣告示第一号)に従って、適合するもの「○」、許容とされるもの「△」、適合しないもの「×」として判別した場合、最も適切な組合せを、後のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- | | | | | |
|---|---|---|---|---|
| エ | ウ | イ | ア | |
| × | ○ | × | × | ① |
| ○ | × | ○ | × | ② |
| ○ | △ | ○ | ○ | ③ |
| ○ | ○ | ○ | ○ | ④ |
| △ | △ | ○ | △ | ⑤ |
| ○ | ○ | △ | △ | ⑥ |
| × | ○ | △ | △ | ⑦ |
| ○ | ○ | × | ○ | ⑧ |
| ○ | × | ○ | ○ | ⑨ |
| △ | × | × | × | ⑩ |
-
- | | |
|---|---------|
| ① | もみぢ |
| ② | いちぢるしい |
| ③ | ちぢれる |
| ④ | ゆのみぢやわん |
| ⑤ | 世界ぢゅう |
| ⑥ | いなづま |
| ⑦ | 家族のきづな |
| ⑧ | たづなを引く |
| ⑨ | 事実にもとづく |
| ⑩ | 赤づきん |